

県立一志病院で実習した医学生・研修医等の状況

平成27年11月
県立一志病院

- ◇ 一志病院で研修等を受けた研修医総数は延べ73名で、指導医等で着任した医師も合わせて、現在も三重県で勤務している医師は実数で35名程度と考えています。
- ◇ 初期研修(短期)を受けた52名のうち5名が、三重大学家庭医療学後期研修プログラムに進んでいます。
- ◇ 当院に後期研修医として着任した21名のうち18名は三重大学以外の出身です。
- ◇ 指導医等で着任した医師(当院後期研修医経験者除く)10名も、ほとんどが県外からの転入であり、研修プログラムが医師不足解消にも一定の成果を上げています。
- ◇ 三重大学医学部5・6年生は、平均30名/年受入れを行い、地域医療・総合診療の臨床実習を行っています。また、今年度は三重県出身で県外の医大生についても、受入れを行いました。

初期研修医

- ↓ 記録の残る平成21年度以降、7年間で52名の初期研修医が概ね1か月間の地域医療実習を当院で受講しています。
- ↓ 派遣元は、県内の病院から18名、愛知県から21名、大阪府から13名となっています。

[県内病院の内訳]	三重大学附属病院	9名	桑名東医療センター	2名
	県立総合医療センター	3名	鈴鹿中央総合病院	1名
	松阪市民病院	3名		
- ↓ 初期研修医の現在の勤務先は完全に把握できていませんが、県内病院から派遣された18名は現在も県内で勤務しているものと考えられます。なお、うち5名が家庭医療学後期研修プログラムに進んでいます。

後期研修医

- ↓ 平成19年度以降に当院が採用し、概ね6か月～1年程度の期間、後期研修医として勤務した医師は21名です。うち、18名は三重大学以外の出身で、多数の他府県出身の研修医が三重大学家庭医療学後期研修プログラムを受講しながら、当院において地域医療にも貢献しています。
- ↓ 後期研修修了後の勤務先を完全に把握できていませんが、研修中の医師も含め少なくとも13名は現在も県内で勤務しています。

[勤務先の状況]	県立一志病院	6名	亀山市立医療センター	3名
	三重大学附属病院	1名	桑名東医療センター	1名
	志摩市民病院	1名	名張市(開業)	1名

指導医等

- 平成 19 年度以降に指導医等で着任した医師は 20 名で、うち当院で後期研修を受講し、終了後当院へ指導医等で勤務した医師は 10 名、県外から当院に着任した医師が 10 名となっています。
- 県外から指導医等として当院に着任した医師は 10 名で、4 名は現在も県内で勤務しています。
〔勤務先の状況〕 県立一志病院 3 名 亀山市立医療センター 1 名

医学生（5 年生・6 年生）

- 記録の残る平成 21 年度以降、7 年間で三重大学の 5・6 年生 209 人が、概ね 4 週間の臨床実習を当院で受講しています。

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27(予定)
5 年生	39 人	32 人	27 人	26 人	22 人	20 人	23 人
6 年生	1 人	0 人	6 人	5 人	3 人	1 人	4 人
合計	40 人	32 人	33 人	31 人	25 人	21 人	27 人

※平成 27 年度には、東京女子医科大学 5 年生 1 名を含む。

- 三重大学医学部 1 年生は「医療と社会」をテーマとして 2 日間の病院実習を行い、毎年 12 名程度を受け入れています。また、その他の学年にあっても随時実習・見学で当院を訪れています。

三重県立一志病院における研究と発表

平成 27 年 11 月 1 日現在

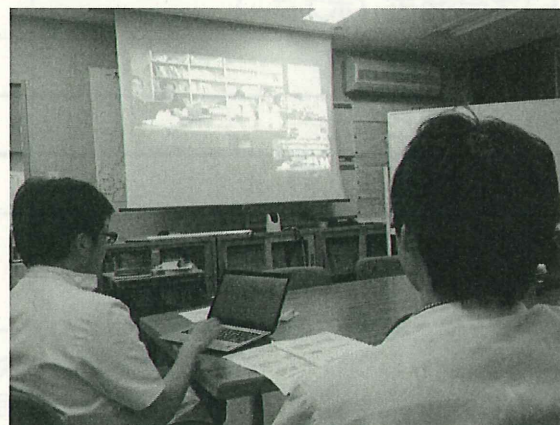
県立一志病院では、院長のビジョンとして、①家庭医を中心とした地域医療、②地域医療を担う人材の教育、③医療や教育に関する研究 に取り組むことにより、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになることを目指しています。このため、医師をはじめとする職員の研究に取り組む意欲の醸成や研究を行うための体制整備に努めています。(一志病院公式ホームページより)

わが国では平成 29 年から日本専門医機構による新たな専門医制度が始まります。

平成 27 年 9 月に三重県において「新たな専門医の仕組みに関する説明会」が開催されました。

池田康夫氏(日本専門医機構理事長)は講演の冒頭で「**地域医療の格差是正も必須である事から、総合診療専門医制度の確立は重要である**」ことを強調しました。そして千田彰一氏(日本専門医機構理事、香川地域医療支援センター参与)は、「**専門医養成プログラムではリサーチマインドの涵養が整備指針でうたわれているので、大学あるいは研究に触れる機会を提供できる施設が入ることが望ましい**」ことを強調しました。

県立一志病院では上記のような制度指針がでる以前から三重大学総合診療科と連携し TV 会議システムを利用したリサーチ(研究)に関連する勉強会を定期的に開催してきました。この勉強会は、大学院生、指導医、研修医らを対象とし、リサーチに必要な統計学、疫学、医学教育学を系統的に学べるように国内外で優れた業績のある講師により講義がおこなわれています。



直近 2 カ月間(平成 27 年 10 月から 11 月)に開催した内容を下に示します。

日程	曜日	No	講義名	時刻	講義内容	教員
10/2	金	13	疫学 I	17:00-18:20	質問紙法・QOLの測定と評価	鈴鴨 よしみ
10/2	金	12	統計学	18:40-20:00	尺度構成(探索的因子分析 / 検証的因子分析)	市川 周平
10/5	月	10	疫学 II	17:00-18:20	介護予防データを用いた疫学研究	大西 丈二
10/16	金	14	疫学 I	17:00-18:20	メタ分析(I)	四方 哲
10/16	金	13	統計学	18:40-20:00	臨床有意性(MDC,MCID)	市川 周平
10/22	木	9	医学教育学	18:00-19:30	Peer Teaching, simulation, medical english	Daisy Rotzoll
10/26	月	11	疫学 II	17:00-18:20	いろいろなデータを用いた疫学研究1	小林 隆司
10/26	月	10	医学教育学	18:30-19:30	多職種連携教育 Interprofessional learning	若林 英樹・後藤 道子
11/6	金	15	疫学 I	17:00-18:20	メタ分析(II)	四方 哲
11/6	金	14	統計学	18:40-20:00	重回帰分析(1) 基礎・カテゴリ型独立変数	市川 周平
11/9	月	12	疫学 II	17:00-18:20	いろいろなデータを用いた疫学研究2	大西 丈二
11/9	月	11	医学教育学	18:30-19:30	アウトカム基盤型教育 Outcome based Education	高村 昭輝
11/16	月	13	疫学 II	18:40-20:00	データの可視化	大西 丈二
11/20	金	16	疫学 I	17:00-18:20	日本の医療制度	関本 美穂
11/20	金	15	統計学	18:40-20:00	重回帰分析(2) 多重共線性・交互作用	市川 周平

このような教育・研究体制を構築し維持することは容易ではありません。
しかしこのような環境を整備しなければ優秀な医師は赴任しません。

三重県立一志病院における研究と発表

平成 27 年 11 月 1 日現在

医師だけではなく全職員が医療に関する研究、発表に取り組んでいます。平成 25 年からは看護部長がリーダーとなり「研究やろう会」が発足し月に 1 回の定期検討会を開催し着実な成果を出せるようになりました。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1)原著論文 (英文)	0編	0編	3編	2編
2)原著論文 (和文)	0編	0編	0編	0編
3)雑誌 (和文)	2編	12編	7編	7編
4)学会発表 (口演)	1編	1編	4編	3編
5)学会発表 (ポスター)	0編	2編	7編	5編
6)研究会等発表	1編	5編	6編	9編
7)書籍など	0編	0編	1編	1編
計	4	20	28	27

11月1日現在

■三重大学との共同研究 (現在進行中) のテーマ

- 適切な受療行動を決定する心理社会的要因
- 地区住民の医療使用の現状
- 効果的な糖尿病患者のフォロー頻度
- 高齢者の認知症の治療方法
- 斬新な個別栄養指導の効果検証
- 緑茶飲用とアレルギー疾患の関連
- システムティックレビューを用いた研究
- 美杉地区のコホート研究
- レセプトデータを用いた疾病構造と受療行動の研究
- 一志病院ダイエットクラブスタディー

■病院職員による研究 (今年度開始分) のテーマ

- 医師による
 - 外来看護師と医師の診断の違い (ICPC) の有無の検証 (亀山市民医療センターと高茶屋診療所と共同研究)
 - 死亡退院時のお見送り慣習、国際比較
- 看護師による
 - オムツ交換ベストプラクティクスの取り組み
 - 身体拘束ゼロに向けた取り組み
- 事務職員による
 - 救急ホットライン導入による搬送時間の短縮効果とその評価
- 栄養士による
 - 糖尿病教室参加者の血糖改善効果、体重変化について
- 検査技師による
 - 血液培養の採取回数における決断因子、質的研究

全職員が誇りをもち「三重県から世界に発信する」ことを目標に研究、発表を行っています。

平成 26 年度 研究・発表業績

三重県立一志病院

【原著論文 英文】

Takeshi Seta, Yoshinori Noguchi, Satoru Shikata, Takeo Nakayama
Treatment of acute pancreatitis with protease inhibitors administered through intravenous infusion: an updated systematic review and meta-analysis. BMC Gastroenterol. 2014 May 30;14(1):102.

Satoru Shikata.

Advisory comment to Oncological benefit of preoperative endoscopic biliary drainage in patients with hilar cholangiocarcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Aug;21(8):541.

Ukai T, Shikata S, Inoue M, Noguchi Y, Igarashi H, Isaji S, Mayumi T, Yoshida M, Takemura YC.

Early prophylactic antibiotics administration for acute necrotizing pancreatitis: a meta-analysis of randomized controlled trials. J Hepatobiliary Pancreat Sci. (2015)22:316-321.

【原著論文 和文】

【雑誌 和文】

竹田啓.

「骨折と不穏を伴ったが、希望通り自宅での死を迎えることができたハナさんの物語。」
雲出川 31: 14-15(2015)(久居一志地区医師会雑誌)

四方哲

「全職員の誇り高きビジョンとして家庭医を育成する」
全国自治体病院協議会雑誌 第 53 巻 12 号 2014;1896-1898.

四方哲

「幸福とは何か？」
全国自治体病院協議会学会雑誌 第 54 巻 1 号 2015; 72-73.

洪英在

『90 疾患の臨床推論！診断の決め手を各科専門医が教えます 「せん妄」』
レジデントノート増刊 Vol.16 No.14 p2708-2709, 2014

洪英在

『90 疾患の臨床推論！診断の決め手を各科専門医が教えます 「アルツハイマー型認知症」』
レジデントノート増刊 Vol.16 No.14 p2748-2749, 2014

洪英在

『90 疾患の臨床推論！診断の決め手を各科専門医が教えます 「レビー小体型認知症」』
レジデントノート増刊 Vol.16 No.14 p2750-2751, 2014

洪英在

【特集】総合診療で支える！高齢者の在宅復帰 在宅復帰支援におけるバックアップベッドの意義～いつでも入院できるという安心が在宅医療を支える
総合診療の G ノート Vol1.No5 p699-708, 2014

【学会発表(口演)】

矢部千鶴、松本 順子、裏川 友紀、植村 由佳子、四方 哲、竹村 洋典

「広域少子地域における「子育ての困難感」に関わる因子の検討」
(第 5 回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会、平成 26 年 5 月 11 日、岡山)

矢部千鶴、四方哲、竹村洋典

「テレビ会議システムを利用した教育と生涯学習～現状と課題～」
(プライマリ・ケア連合学会中部ブロック支部学術集会、平成 26 年 11 月 30 日、富山)

庄山直美、藤井久美子、西川祥子、四方哲、澁谷咲子、小林恭子

「津市白山・美杉地域における保健・医療・福祉の連携について」
(第 54 回全国国保地域医療学会、平成 26 年 10 月 10 日、岐阜)

S Shikata, YJ Hong, C Yabe, H Takeda, T Ukai, S Kondo, S Tsuruda, L Dawes, Y Takemura.
Description of palliative care in clinical guidelines for cancers around the world.
(シンポジウム、WONCA, 7March 2015, Taipei, Taiwan)

【学会発表(ポスター)】

近藤 諭、四方 哲

「家庭医による糖尿病教室は、患者の HbA1c を低下させるか？」
(第 5 回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会、平成 26 年 5 月 11 日、岡山)

奥山敦

「当院病棟看護師における“高齢者の終末期医療およびケア”についての意識調査」
(第 53 回全国自治体病院学会、平成 26 年 10 月 30 日、宮崎)

荻原味香、後藤 芳伸、堀井 正紀、小椋 友美、鎌田 隆広、上田 加奈子、三村 直樹、四方 哲

「糖尿病教室参加者の血糖改善効果についての報告」
(第 53 回全国自治体病院学会、平成 26 年 10 月 30 日、宮崎)

野尻光子

「上顎歯肉がん終末期の妻を在宅で看取った夫の思いを振り返る」
(第 38 回日本死の臨床研究会、平成 26 年 10 月 31 日、大分)

大久保幸世

「末梢静脈カテーテル挿入・留置における手順の統一化と課題の可視化の有効性」
(第 30 回日本環境感染学会、平成 27 年 2 月 20 日、神戸)

S Shikata, S Shibuya, K Kobayashi, L Dawes, Y Takemura.

Impressions and Beliefs of General Practitioner Serviced Rural Hospitals in Mie Prefecture, Japan: A Qualitative Study. (WONCA, 21 May 2014, Kuching, Malaysia)

YJ Hong, S Shikata, T Ukai, H Takeda, S Kondo, S Tsuruda, C Yabe, Y Takemura.

Primary care physicians should be involved in making clinical guidelines of cancer treatment in Japan. (WONCA, 6March 2015, Taipei, Taiwan)

【研究会/シンポジウム/特別企画/セミナーなど】

矢部千鶴

「家庭医療って何だろう？」
(家庭医療学セミナー in Mie、平成 26 年 6 月 14 日、津市)

近藤諭

「家庭医療に関わる職種(医師・看護師・薬剤師・ケアマネ)を知ろう!お話を聞こう!話そう!」
(家庭医療セミナー 2014 in Mie、平成 26 年 6 月 14 日、津市)

近藤諭

「日本でどんな家庭医が育っているの? ~ 第 3 回! 家庭医療専門医試験を体験する」
(学生・研修医のための総合診療医セミナー in 東北、平成 26 年 11 月 15 日、仙台市)

小林恭子、澁谷咲子、若林千秋、井端清二、磯田晋一、矢部千鶴、四方哲

「白山・美杉地域ケア会議の取り組みと課題、第 2 報」
(第 31 回三重県地域医学研究会、平成 26 年 12 月 6 日、津市)

西川さゆり

「自立生活が困難である独居高齢者を在宅で支えた一事例」
(第 6 回地域包括ケア交流会、平成 26 年 12 月 13 日、東京)

近藤諭、竹田啓、矢部千鶴ら

「もし若手の家庭医が初めて学校医を依頼されたら」
(第 10 回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー、平成 27 年 2 月 21 日、東京)

【書籍等】

四方 哲(分担執筆)

急性膵炎診療ガイドライン 2015[第 4 版]. 第 4 章「疫学」
(急性膵炎診療ガイドライン 2015 改訂出版委員会編、金原出版、東京、2015)

平成 27 年度 研究・発表業績

三重県立一志病院
平成 27 年 11 月 1 日現在

【原著論文 英文】

Masamichi Yokoe, Tadahiro Takada, Toshihiko Mayumi, Satoru Shikata, et al.
Japanese guidelines for the management of acute pancreatitis: Japanese Guidelines 2015
J Hepatobiliary Pancreat Sci. (2015)22:405-432.

Shosuke Satake, Kazuyoshi Senda, Young-Jae Hong, et al
Validity of the Kihon Checklist for assessing frailty status.
Geriatrics Gerontol int
Article first published online: 14 JUL 2015

【原著論文 和文】

【雑誌 和文】

四方 哲
「WONCA」
(治療 97:976-978, 2015)

四方 哲
「パブリックインボルブメント」と「ニュー・パブリック・マネジメント」
(全国自治体病院協議会雑誌第 54 巻 8 号 2015;1229-1230.)

橋本修嗣
「救急内科的対応」
(診断と治療 103 巻 12 号 2015;-)

洪 英在
「在宅ケア」
(診断と治療 103 巻 12 号 2015;-)

鵜飼友彦
「総合診療の継続性」
(診断と治療 103 巻 12 号 2015;-)

四方 哲
「システムティックレビュー」
(診断と治療 103 巻 12 号 2015;-)

鵜飼友彦
「めまい」
(レジデント 8 巻 4 号 2015;89-97)

【学会発表(口演)】

洪 英在
「望ましい胃ろう、望ましくない胃ろう～胃ろうに関する議論の整理を行いましょう～」
(第 17 回日本在宅医学会もりおか大会、平成 27 年 4 月 26 日、盛岡市)

鵜飼友彦
「診療ガイドライン作成委員会報告 ～プライマリ・ケア医が今後診療ガイドライン作成に関わる為に～」
(第 6 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、平成 27 年 6 月 13 日、つくば市)

近藤誠吾
「腸閉塞症状で来院した原発性小腸癌の 1 例」
(第 6 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、平成 27 年 6 月 14 日、つくば市)

【学会発表(ポスター)】

遠藤聡恵
「地域防災訓練に参加し地域との関わりを深める～住民との顔の見える関係性の通した在宅医療推進への試み～」(第 17 回日本在宅医学会もりおか大会、平成 27 年 4 月 26 日、盛岡市)

和田健治

「65歳以上の高齢者の肺炎を臨床検査なしで同定するための臨床予測ルールの開発—第1報」
(第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、平成27年6月14日、つくば市)

吉村恵美他

「超高齢者地域における過去4年間の健康教室開催の推移と考察」
(第54回全国自治体病院学会、平成27年10月8日、函館市)

三村直樹他

「白山・美杉地域高齢者における転倒恐怖感と身体能力の関連について」
(第54回全国自治体病院学会、平成27年10月9日、函館市)

小林真理子他

「口腔ケアベストプラクティスの取り組み」
(第54回全国自治体病院学会、平成27年10月9日、函館市)

【研究会/セミナーなど】

洪 英在

「アドバンス・ケア・プランニングと意思決定支援の臨床」
(第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、平成27年6月13日、つくば市)

洪 英在

「地域医療連携ワークショップ ～ケースで学ぶ在宅医療との連携～」
(第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、平成27年6月13日、つくば市)

鶴飼友彦

「根拠に基づく予防医療:個々の患者に対するアプローチ、地域に対するアプローチ」
(第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、平成27年6月13日、つくば市)

澁谷咲子

「認知症の父を在宅で看取って ～家族の立場から意思決定支援を考える～」
(病院が取り組む地域包括ケア研究会 in 三重、平成27年6月26日、津市)

野尻光子

「上顎歯肉がん終末期の妻を在宅で看取った夫の思いを振り返る」
(病院が取り組む地域包括ケア研究会 in 三重、平成27年6月26日、津市)

洪 英在

「地域ケアシステムと管理栄養士」
(訪問栄養研修会(愛知県栄養士主催)、平成27年6月27日、名古屋市)

橋本修嗣

「もし家庭医であるあなたの暮らす地域で災害が起きたら」
(家庭医療学セミナー in MIE、平成27年6月27日、津市)

橋本修嗣、鶴田真三、矢部千鶴

「もしふつうの研修医が家庭医療研修を受けたら ～もしカテ～」
(学生・研修医のための家庭医療学夏季セミナー、平成27年8月3日、熱海市)

洪 英在

「認知機能低下者の栄養関連問題点の整理と各問題点に関して栄養士に期待すること」
(三重県地域活動栄養士連絡協議会訪問栄養研修会、平成27年10月13日、津市)

【書籍等】

洪 英在(分担執筆)

「総合内科999の謎」
(メディカル・サイエンス・インターナショナル、編 清田雅智・八重樫牧人、東京、2015)